学力だけではない

私立校の教育力が子どもの人間力を伸ばす

私立校では、明確な教育理念と目標のもと、自由な裁量で個性的な教育の取り組みが行われています。多くの熱意ある教員が、生徒が主体の教育を、その時代に応じた柔軟な姿勢で実践しています。

個性的で多様な教育

私立校には必ず学校創立者がいて、その創立者の教育理念に基づいた教育が行われています。そのため私立校には学校の数だけ個性があり、一つとして同じ校風の学校はありません。平等を重視し、どの学校でも同じ教育を目指す公立校とは大きな違いがあります。

公立校は共学が中心ですが、私立校は共学校だけでなく、男子校や女子校が多く存在します。中には、100年を超える伝統校もあります。別学校では、男子と女子それぞれの特徴を生かした教育が行われています。人気校の中には創立時からの別学を守り続けている学校も多く、別学校を希望する受験生や保護者も少なくありません。

しかし、最近は別学校の共学校化が進んでいます。東京には男子校が31校、女子校が72校、共学校が137校あり、共学校の数が男子校と女子校を合わせた数を上回っています。神奈川も共学校が半数を超えました。埼玉や千葉では、比較的新しい学校が多いことも影響して、共学校の方が多くなっています。

私立校には、キリスト教や仏教など、宗教に基づいて設立された学校があります。校風や教育活動、学校行事などに宗教理念が反映され、カリキュラムに宗教の時間が含まれます。入学に際して信者である必要はありません。宗教理念を背景とする教育方針に、強い信頼が寄せられている学校が多く見られます。

大学や短期大学が併設されている大学付属校には、優先的に併設大学へ入学できる制度があり、大学進学に有利です。しかし、優先入学には条件があり、それをクリアしないと内部進学できません。卒業すれば全員が進学できる学校から、ほとんどの生徒が他大学へ進学する学校まで、内部進学状況は学校によってさまざまです。付属校を選ぶときは、優先入学の条件を把握しておかなければなりません。

また、志望する学部・学科が併設大学にない場合は、他大学を受験することになりますので、併設大学についても調べておく

必要があります。最近は、生徒の多様な進路希望に対応するため、併設大学への優先入学の権利を持ちながら、他大学受験が可能な付属校が増えています。

高学力を養成する独自のプログラム

大学合格実績の良さも私立校の特徴の一つです。難関大学の合格者の多くは私立校出身者です。どうして高い合格実績を残すことができるのでしょうか。それは、カリキュラムに独自の工夫を凝らしているからです。中高６年間、または高校３年間のカリキュラムを柔軟に編成して、無駄を省いた無理のない指導を行っています。

学校週５日制の公立校では、土曜日は休日です。私立校の多くは学校６日制を採用し、土曜日には授業や補習を行ったり、学校行事を実施するなどして、年間の授業時間数を確保しています。

補習や講習の体制も整っています。始業前の０時限目や放課後の７時限目を設定して補習を行ったり、長期休暇中には集中的に講習を行っています。また、自習室を整備する学校が増えています。担当教員やチューターの下で、集中して勉強することができます。

各教科の授業内容においても常に研究を続け、教科書だけでなく、豊富なオリジナルテキストの作成や問題集などの副教材を厳選し、わかりやすく身につきやすい授業の工夫を続けています。英語教育でのネイティブ教師と日本人教師によるWティーチャー制による指導や、オンライン英会話、他教科での英語授業、ディベート授業などは、私立校の先進性が生みだした授業です。アクティブ・ラーニングは、私立校の授業に自然に取り入れられています。さらにICT（情報通信技術）を積極的に取り入れた教育も行っています。タブレットや電子黒板などを活用して、よりわかりやすい授業を工夫しています。

多くの学校で習熟度別授業が行われていますが、これは生徒を学力によって差別するものではありません。学力にムラがないクラス編成で、学力に合った理解しやすい授業を行うことが目的です。そのため、問題点の解決が早く、効率よく学力を伸ばすことができます。

さらに、希望進路別にコースを設けて、進学に対応できる学力を養成しています。難関大学合格を目指した特進コースや、東大や医学部などの明確な目標を掲げ、高いモチベーションを持たせているコースもあります。

国際理解教育は国際社会で活躍するために必要不可欠です。英語教育では、大学受験のためだけでなく、「聞く」「話す」「読む」「書く」の４技能をバランスよく育成し、コミュニケーション能力を身につけます。英会話の授業や、検定試験の資格取得はもちろんのこと、英語だけを使って過ごす英語デーを設置するユニークな取り組みも見られます。

海外修学旅行や長期休暇中のホームステイによる語学研修も盛んです。中には１年間の留学をしながら高校３年間で卒業できる留学コースを設置している学校もありま

す。さらに、海外の高校卒業資格も取得できるダブルディプロマや、国際バカロレア資格（国際的に認められる大学入学資格）が取得できるプログラムを取り入れたり、TOEFL®のスコアアップを図るカリキュラムを整え、海外大学への進学希望をかなえる学校も出てきています。

「大学入学共通テスト」では、知識だけでなく、新学習指導要領の学びのねらいである「思考力、判断力、表現力」が問われます。これに対応する力をつけるには、私立校の教育が有利です。なぜなら、学習指導要領の改訂前から、課題解決型学習の探究の授業を取り入れていた学校も多く、こうした力を伸ばす教育をすでに実施し、多くのノウハウを持っているからです。大学入試がどのように変化しても、十分に対応可能な柔軟性を私立校は備えています。

私立校では教育のICT化が進んでおり、生徒が１人１台のタブレットやPCを持つことも珍しくありません。コロナ禍による休校時には、早期からオンライン授業を実施して通常時同様の勉強を続け、生徒の学力低下を防ぎました。さらに、課題を与えてグループごとに話し合い、レポートを作成するなどのアクティブラーニングにも、ICT機器を利用して積極的に取り組み、学びを広げました。

個々の可能性を見つけて育てる人間教育

私立校の教育は、教科学習だけに偏重しているわけではありません。人間教育にも力を入れています。人間力を鍛え伸ばすことが、将来、社会に出てから伸びる人材を育てるという目標につながるからです。

自主性や社会性を身につけるために、学校行事や委員会・クラブ活動が重視されています。行事では、生徒同士が目標に向

かって協力し、作り上げていきます。無事に成功したときの達成感は、授業では得難いものになります。

クラブ活動では、才能や技術のみを磨くのではなく、一生懸命努力することを目指しています。そこには先輩・後輩の人間関係を円滑にするコミュニケーション能力や、チームの運営能力も求められます。いずれも、将来社会に出てから役立つ貴重な体験となります。

また、豊かな感受性を育て、情操面を伸ばす教育も熱心に行われています。歌舞伎や能、狂言などの日本の伝統芸能や、演劇やバレエ、コンサートなどの芸術鑑賞が定期的に行われています。そのほか、礼法の授業やテーブルマナーの実践などのしつけ教育、また精神を鍛えるための夜通しの強歩大会や、座禅修養なども実施されています。

さらに、多くの学校でキャリア教育が行われています。キャリア教育では、大学進学という目の前の目標だけでなく、自分の将来像、どのような人生を過ごしたいのかを考えます。自分自身を見つめ直し、大学の学部・学科研究をし、いろいろな職業を調べ、なりたい自分像を模索します。その手助けとして、ＯＢやＯＧ、保護者、外部の有識者などによる講演が数多く行えるのも、私立校の豊かな財産の一つといえます。